

令和6年度 第1回 JCHO 東京蒲田医療センター地域協議会議事録

日 時：令和6年6月14日（金）14：00～14：30

場 所：東京蒲田医療センター 健康管理棟

出席者：宮島委員（テクノポートクリニック院長）

古川委員（社会福祉法人池上長寿園蒲田事業部門統括事業所長）

薄井委員（岩井機械工業株式会社専務取締役）

田中委員（南蒲田二丁目町内会町会長）

渡邊委員（南蒲田一丁目自治会長）

（JCHO 東京蒲田医療センター）

渡邊委員、宮澤委員、田村委員、佐藤委員、菊地委員、村田委員、林委員、

圓館委員、田窪委員、三ツ木委員（書記）

司会：JCHO 東京蒲田医療センター 副院長 田村晃

【議事内容】

1. 院長就任の挨拶

渡邊院長より院長就任の挨拶を行った。

2. 令和6年度 交代委員の挨拶

田中委員、林委員よりそれぞれ挨拶を行った。

3. 令和5年度の実績報告

圓館委員より資料に基づき、下記事項について報告を行った。

1) 令和5年度実績

・一日平均入院患者数

平均137.9人とコロナ禍と比較すると徐々に増加している。

・一日平均外来患者数

平均312.4人とコロナ禍以前と比較すると30人程度減少している。新型コロナウイルスの影響で、当院のみならず患者様の病院離れが進んでいることが原因と考えられる。引き続き地域医療機関と連携をしていきたい。

・救急搬送患者数

昨年度累計2,501件、月平均208.4件の応需率。引き続き地域の救急診療に従事していく。

・手術件数

昨年度1,348件。

- ・紹介患者受入件数

年間 4,000 件程度の紹介患者を受け入れている。

- ・健康管理センター受診者件数

昨年度 26,529 件。

2) 活動実績

- ・教育活動として、2023 年度に 2 回の区民公開講座開催と ACP「意思決定支援」に関する研修会の講師を務めた。

- ・2024 年 6 月 29 日(土)に区民公開講座「医療と介護の連携」を開催予定

- ・診療・介護報酬改定に伴う地域との連携強化

→介護福祉施設と施設の感染対策も含めて連携を深めていく。

3) 医療機器導入のご案内

- ・MRI 最新機種の導入

- ・前立腺肥大症の治療

4. 外部委員との意見交換

(渡邊委員)

区民公開講座の座談会は、医療従事者に直接悩みを話すことができ、すぐに相談できる場として、区民の皆様が喜んでいました。これからも続けてほしい。

(古川委員)

地域包括支援センターの役割について区民の方々へ浸透させるのが困難であった。次回の区民公開講座のように、病院と一緒に包括を紹介出来る機会を設けていただけてありがたいと感じている。より身近な場所として地域包括支援センターを知っていただけることが課題であり、今後も医療と介護の連携について私共も考えていきたい。

また協力対象施設に選んでいただいたことは、当施設で働いている介護職員・入居者様のご家族にとっても心強いことである。さらに意思決定支援については特養でも永遠の課題であり、ACP の研修を介護機関も一緒に行っていただけたら良いと考える。

(渡邊院長)

病院と施設との連携、ACP の研修はさらにしっかりと行っていかなければならないと痛感した。今後とも連携をよろしく願いいたします。

(宮島委員)

外来に来られた患者様の意見を取り上げる部署があったらいいと感じた。また、紹介患者の返書を早めにいただければ嬉しい。

(圓館委員)

ありがとうございます。参考にいたします。

(薄井委員)

コロナ禍から病院経営が大きく変化したのではないか。今後は病院において、他職種が一体化していくことが課題ではないかと考える。この課題に関しては、本日の地域協議会の雰囲気から東京蒲田医療センターはクリアしているのではないかと感じ取れた。これからもよろしく願いいたします。

(渡邊院長)

他職種間のコミュニケーションのあり方について、他職種会議を実施している。入院後速やかに退院支援を考え、患者様のサポートが出来る病院になれるよう、取り組んでいる。

(薄井委員)

以前と比較すると病院の雰囲気がとても良くなったように感じる。

(佐藤委員)

地域住民の意見を伺う機会を作り、求められる医療とは何か、患者様にどのように寄り添うべきかを大きなテーマとして考えていきたい。在宅介護をしている方々の気分転換を図り、心身のバランスをとっていただくための支援として、レスパイト入院を受け入れている。地域住民の方々にも広くご活用いただきたい。

以上